

第73回 AI活用は、いつでも、だれでも、タダで・・・PART4

ChatGPTやGemini（旧Bard）は、インターネット接続できる端末さえあれば、いつでも、誰でも（技術的知識ゼロでも）、タダで活用できるとお伝えしてきました。

加えて、今年に入ってから、ChatGPTと同じ技術を使った「Copilot」が普及したり、ChatGPTやGeminiの無料版で利用できるサービスが拡大・強化されたりしています（ChatGPT無料版で、従来の「GPT-3.5」よりはるかにスペックの高い「GPT-4o（フォーオー）」「GPT-4o mini」等が使えるようになったことなど）。

もはやビジネスの分野では、これら生成AIを使うかどうかというより、「どう使いこなすか」がテーマになっています。

ちなみに音声入力・音声出力が可能になっていますので、視覚障がいの方の就労支援などに何か使えるのかもしれませんが。

繰り返し復習ですが、生成AIの利用にあたって、

- ・個人情報、企業秘密などは入力しない（入力データがAI側のサーバーに送られてしまうから）

- ・回答は鵜呑みにせず、対外的に利用するときは必ずチェックする（誤りや、偏見を含んだ回答もありうるから）

- ・著作権などに注意する（元データが他者の著作物である可能性もあるから）」

の3点だけ気をつければ、あとはどう使っても大丈夫です。難しく考えずとりあえず使ってみて、慣れてしまうことが大事だと思います♪。

これも復習ですがAIの使い方として有効なのは、「聞く」のではなく、「やらせる」「作らせる」ことです。この観点から、今回もプロンプト（AIに入力する指示文）の例を紹介します。

いずれも、1回のプロンプトで終らせず、修正の指示や、追加の指示をしてゆくことで、有用な成果物に近づけていきます。（「」内がプロンプトで、矢印に続くのが次のプロンプトです。）

① 「北海道〇〇町の特産品である〇〇を使った、健康志向のおにぎりを販売しようと思っています。主な顧客層は中高年齢層の観光客です。気の利いたキャッチコピーを4つ考えて下さい。」→「第2案をベースに、障がい者就労支援事業所の製品であることも盛り込んだ、Facebook への投稿記事を作って下さい。」→「健康志向であることをもっと強調して」→「もっとくだけた表現で」→「Instagram に投稿する商品写真のイメージを3つ考えて」

② 「北海道〇〇市の〇〇駅前商店街にある障がい者就労支援事業所です。主な事業はクリーニングと清掃です。人手不足のためパートを雇用したいので、タウン誌に求人広告を出します。その文言を3案考えて下さい。ただし、最低賃金しか払えません。」→「第3案をベースに、障がい者の自立を支える仕事でもあるという視点を加えて」→「もっと若者向きの表現にして」→「人間関係の良い明るい職場を想像させる用語も埋め込んで」→「一文を短

めに」

③ 「私は、〇〇製造・販売を中心とした障がい者就労支援事業所の職員です。工賃向上のためには生産性向上が必要と考え、そのための手段として××の活用を検討しています。しかし利用者からは反対されそうにも思います。どのような反対理由がありうるか、5つ考えて下さい。」 → 「うち、2の理由について、私からの反論を考えて」 → 「それに対する利用者からの反論を考えて」 → 「私からの再反論を考えて」